

平成 2 8 年 1 2 月 2 2 日



名古屋港管理組合

平成 2 8 年名古屋港 1 0 大ニュース
記者会見資料について
平成 2 8 年名古屋港港湾統計年推計

本日、会見発表しました標記の件につき、資料をお送りいたします。

(この紙を含めず 14 枚)

お問い合わせ先

1 0 大ニュース

総務部広報・にぎわい振興担当 (担当 : 岡松・志賀・小島)

TEL 052-654-7839

港湾統計年推計

企画調整室統計センター (担当 : 北村・久米)

TEL 052-654-8019

平成28年（2016年）名古屋港10大ニュース

【物流関連】

- ◎ 総取扱貨物量15年連続日本一へ
- ◎ 飛島ふ頭のコンテナ取扱機能の強化に向け事業採択
- ◎ 金城ふ頭の完成自動車取扱機能の強化に向け工事着手
- ◎ 鍋田ふ頭進入道路の全線4車線化完了

【防災・危機管理関連】

- ◎ 堀川口防潮水門の躯体の耐震工事始まる

【親しまれる港づくり関連】

- ◎ アジア最大のクルーズ船、乗客4,400人を乗せ初入港
- ◎ LEGOLAND® Japanの開業日が来年4月1日に決定
- ◎ 中川運河に新たなにぎわい施設を誘致
- ◎ ガーデンふ頭のにぎわい創出に向け再開発基本計画の策定始まる

【その他】

- ◎ 海洋環境プログラム「グリーンアワード」に参加

総取扱貨物量 15 年連続日本一へ

平成 28 年の名古屋港港湾統計の推計値がこのほどまとまった。

総取扱貨物量は、1 億 9, 110 万トンと、昨年に引き続き 2 億トンを下回ったものの、15 年連続で日本一を堅持する見込みとなった。

また、外貿コンテナ取扱個数は、248 万 TEU と、全国第 3 位の見込みとなった。

輸出では、完成自動車、産業機械等の減少のため前年より減少する見込みとなった。輸入では原油等が減少したが、石炭等の増加により前年並みとなる見込みとなった。

貨物の内訳では、背後地域の産業構成を反映して、完成自動車、自動車部品、産業機械の輸出と、LNG、鉄鉱石、原油、石炭などの産業及び暮らしを支える原材料の輸入が大きなウエイトを占める。

取扱貨物量	平成 28 年推計値	平成 27 年実績	前年比 (%)
総取扱貨物量 (千トン)	191,100	197,980	96.5
外貿コンテナ取扱個数 (千 TEU)	2,479	2,466	100.5

飛島ふ頭のコンテナ取扱機能の強化に向け事業採択

4月1日（金）、名古屋港の特例港湾運営会社である名古屋港埠頭株式会社（埠頭㈱）と名古屋コンテナ埠頭株式会社（NCB）が合併した。NCBは、昭和45年に、進展著しいコンテナリゼーションへの時流を見据え、名古屋港管理組合と民間船会社との共同出資で設立され、飛島ふ頭にコンテナターミナル（CT）を整備、運営してきたが、この合併により40年を超える歴史に幕を閉じた。一方、埠頭㈱は、この合併により、鍋田ふ頭T1・T2、飛島ふ頭東側の北・南の各CTに加え、NCB CTを管理運営することになり、名古屋港におけるCTの一元的管理がさらに進展した。

こうした中、自動車部品や産業機械などの東南アジア航路におけるコンテナ貨物量の増加、カスケード現象^{※1}によるコンテナ船の大型化に対応することを目的とした飛島ふ頭のふ頭再編改良事業が、平成28年度の新規事業に採択された。名古屋港では、昨年^{※2}の完成自動車取扱機能強化に向けた金城ふ頭のふ頭再編改良事業に続く2年連続の新規事業採択となった。

飛島ふ頭東側にあるNCB CTのR1・R2岸壁の水深を12mから15mに増深するとともに耐震強化し、新たに荷役機械の整備などを行い、平成35年度の事業完了を目指す。

飛島ふ頭の外貿コンテナ取扱個数は137万TEU^{※2}（平成27年）と名古屋港全体の5割強を占めている。特に事業対象となるNCB CTに寄港する東南アジア航路のコンテナ取扱量は自動車関連の製品輸出増加により今後10年間で1.6倍に増加すると見込んでいる。

今回のふ頭再編改良事業により、飛島ふ頭南コンテナターミナルと合わせて、水深15mの連続1,400mの岸壁が完成することになり、飛島ふ頭におけるコンテナ取扱機能の強化が期待できる。

※1 カスケード現象

コンテナ輸送の効率化に伴う基幹航路への新造大型船投入により、既存の船舶が他の航路に玉突き状に置き換わることでコンテナ船全体が大型化していくこと。

※2 TEU (twenty-foot equivalent units)

20ft.（コンテナの長さ）換算のコンテナ取扱個数の単位。20ft. コンテナ1個を1TEUとして計算する。

金城ふ頭の完成自動車取扱機能の強化に向け工事着手

我が国の基幹産業である自動車関連産業の国際競争力の維持・強化を目的として、昨年度、事業採択された金城ふ頭地区のふ頭再編改良事業が、土質調査や岸壁設計を経て、既設 84 号岸壁の増深改良工事（水深 12 m 化）に着工した。9 月 17 日（日）には、多くの港湾関係者の列席の下、名古屋港湾会館で着工式典が開催された。

名古屋港は、輸出だけで年間 136 万台（平成 27 年）に上り、同年まで 37 年連続日本一の完成自動車の取扱台数を誇る。

このうち、金城ふ頭は、三菱、トヨタ、ホンダ、スズキなど複数メーカーの新車・中古車の輸出のほか、海外港湾から海外港湾への積み替え、いわゆるトランシップを取扱う港内の重要な完成車輸送拠点となっている。近年、「船舶の大型化」、「保管用地の分散」、「施設の老朽化」などが課題となっていた。

既設の 85 号岸壁（水深 12 m）の延長を 280 m から 340 m に機能強化するとともに、ふ頭南側の泊地 16.4 ha を埋め立て、水深 12 m の岸壁（延長 260 m）を擁する国際ターミナルを整備する。平成 33 年度の事業完了を目指す。

鍋田ふ頭進入道路の全線 4 車線化完了

3月18日（金）、鍋田ふ頭と背後の幹線道路網を結ぶ「鍋田ふ頭進入道路」が全線4車線での供用を開始した。鍋田ふ頭進入道路は、飛島ふ頭とともに名古屋港のコンテナ物流の2大拠点の一つである鍋田ふ頭と、県道名古屋西港線を結ぶ約2.3kmの臨港道路で、平成25年3月に暫定2車線での供用を開始していた。全線の4車線化により、国内屈指のコンテナ取扱個数を誇る鍋田ふ頭コンテナターミナルのさらなる利便性の向上が図られた。

4月には、新東名高速道路（伊勢湾岸自動車道）と知多横断道路を結ぶ「一般国道247号 西知多道路」の一部区間の新規事業化（東海JCT、青海IC～常滑JCT）が発表された。西知多道路は、全長約18.5kmの自動車専用道路で、沿線には、中部のものづくり産業を支える鋼材・エネルギーの供給基地等が広がる。西知多道路が開通すれば、一般国道247号の渋滞が緩和され、移動時間の短縮など物流の効率化が図られるだけでなく、中部国際空港へのアクセス道路の代替性が確保されるとともに、インバウンド観光やリニア中央新幹線の開業などによる交通需要への対応が可能となる。

また、名古屋西JCTと飛島JCT（仮称）を結ぶ「名古屋環状2号線（西南部・南部）」は、平成24年に事業着手され、鋭意工事が進められている。名古屋環状2号線（西南部・南部）は、自動車専用道路と国道302号で構成される延長約10kmの道路で、開通により、特に愛知県北部方面から名古屋港間の陸上輸送時間が短縮され、物流の効率化が図られる。

こうした道路ネットワークの拡充により、ものづくり中部を支える名古屋港の国際競争力が強化していくことが期待されている。

堀川口防潮水門の躯体の耐震工事始まる

1 1 月、名古屋市街と名古屋港を結ぶ堀川河口にある堀川口防潮水門について、躯体部分の耐震補強工事に現地着手した。堀川口防潮水門は、伊勢湾台風時の甚大な被害を教訓として、高潮や異常潮位時等に市街地への海水の流入を防ぐために、昭和39年に整備された。一方、東日本大震災の東北地方での甚大な被害を教訓として、耐震性や耐波性能の検証を行った結果、本体の耐力や基礎の支持力が不足することが判明した。これを受けて、平成26年度に門扉の補強工事を完了し、現在、平成33年度完了を目途に躯体の耐震補強工事を進めている。

この他、大江ふ頭・潮風ふ頭には、大規模地震が発生した場合に必要な緊急物資等の輸送機能を確保するため耐震強化岸壁が整備されているが、施設の老朽化が進行していることから、老朽化対策と併せ耐震機能の維持・強化に必要な改良工事を実施している。

また、伊勢湾台風の教訓から整備された高潮防波堤は、平成23年の東日本大震災後に、上部工の嵩上げや防波堤本体であるケーソン補強等の地震・津波対策に着手しており、海上部区間が平成26年度に概成、平成28年度に完了の予定である。

アジア最大のクルーズ船、乗客 4,400 人を乗せ初入港

6月27日(月)、アジア最大のクルーズ船「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」(総トン数168,666トン、全長348m)が名古屋港に初入港した。クルーズ船として総トン数、全長とも過去最大船型の入港となった。名港中央大橋の高さ制限(51m)により、通常、クルーズ船が利用するガーデンふ頭に着岸できないため、クルーズ船の大型化に対応して係留施設の機能強化を終えた金城ふ頭80・81号岸壁に着岸した。

世界のクルーズ人口は増加傾向にあり、特にアジア、太平洋地域では中国を中心に市場が急成長している。3月27日(日)には、名古屋港初の中国(上海)発着のクルーズとして「マリナー・オブ・ザ・シーズ」が初入港した。今回のクァンタムも中国発着のクルーズであり、乗客4,400人の多くが中国人であった。

名古屋港でも、クルーズ船の寄港増加、地域経済の活性化と港のにぎわいづくりに向け、平成26年に設立した「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」(事務局:名古屋港管理組合、名古屋商工会議所)を中心に、官民連携した様々な活動を展開している。3月11日(金)には、第3回会議が開催され「クルーズ船寄港によるインバウンドショッピングの現状」のクルーズセミナーが行われた。

LEGOLAND® Japan の開業日が来年 4 月 1 日に決定

金城ふ頭で建設中の「LEGO®」を使用したテーマパーク「LEGOLAND® Japan(レゴランド・ジャパン)」の開業日が来年 4 月 1 日に決まった。5 月 19 日(木)に開催された「1st to play! Unveil Grand Opening Day Ceremony」で発表され、同時に初回特典付年間パスポートの販売も開始された。

金城ふ頭においては、名古屋市が平成 22 年に「モノづくり文化交流拠点構想」を策定している。この構想では、「モノづくり」「産業技術」をテーマに人々が交流する拠点の創出を目指している。

これまでもこの構想に基づき、JR 東海の「リニア・鉄道館」が開業しているが、LEGOLAND® Japan の建設もこの構想実施の一環と位置付けられる。

さらに東側の隣接地では、LEGOLAND® Japan の開業に合わせ、「モノやコトをつくる喜び」をテーマにした物販、飲食、エンターテインメントの複合商業施設「メーカーズ・ピア」が 2 月に着工式を行った。来年 3 月 30 日の開業を予定している。敷地約 2 万 4 千㎡に、飲食や物販の店舗や体験型施設が点在し、エンターテインメントの要素を取り入れた「非日常的な空間」の提供を目指す。

中川運河に新たなにぎわい施設を誘致

名古屋港と都心を結ぶ中川運河では、歴史や役割を尊重しつつ、魅力ある水辺空間を創出し、憩いや賑わいをもたらす運河への再生を図ることを目的とした運河再生の取組を進めている。この取組の中で、中川運河沿岸用地事業提案の募集を行い、9月19日（月）にバッティングセンター「アドニスバッティングスタジアム」（いろは橋周辺）が、また11月4日（金）に喫茶店「珈琲元年中川本店」（長良橋周辺）がオープンした。

「アドニスバッティングスタジアム」は、周辺施設の「みなとアクルス」に計画されているスポーツレクリエーション施設との調和や相乗効果を活かせるよう立地している。また、ここには来場者が運河を眺めながら楽しめる芝生広場とテイクアウトができる飲食施設が設けられている。

一方、「珈琲元年中川本店」は、自社焙煎工場を有している富士コーヒー株式会社が運営している。店舗外観は、以前のにぎわいが盛んであった頃をイメージし、建築デザインをあえて倉庫を近代的にアレンジしたものとするこで、近隣建築物との調和を図っている。また、テラス席を設置するとともに、運河サイドは全面ガラス張りとし、利用者が名古屋駅周辺の高層ビル群をバックに運河を一望できるつくりとなっている。

中川運河では今後も、沿岸用地への新たな土地利用を展開するため、周辺地域の状況を踏まえつつ、段階的な誘致を進めていく。

ガーデンふ頭のにぎわい創出に向け 再開発基本計画の策定始まる

名古屋港の「親しまれる港づくり」の中心拠点の一つ、ガーデンふ頭のさらなるにぎわい創出を図り、再開発の実現性や民間事業者の進出意欲を高めるための「ガーデンふ頭再開発基本計画」の策定に向けた検討作業が開始された。

策定にあたっては、観光や都市開発、経済などの学識者等で構成する「ガーデンふ頭再開発基本計画検討委員会」を設置し、幅広い意見を基に約23haのふ頭全体の将来構想を検討していく。12月18日（日）には、第1回検討委員会が開催され、ガーデンふ頭を取り巻く状況や将来像、再開発の方向性について議論を行った。今後、パブリックコメントの募集も行うなど基本計画に関する検討を進める。同委員会の意見を踏まえ、来秋には「ガーデンふ頭再開発基本計画」を策定する予定である。

また、ガーデンふ頭が再開発されるまでの間についてのにぎわい創出を図るため、エリア内の東地区において、「ひがし広場A」、「ひがし広場B」と2つの区画を設定し、2月10日（水）、平成31年3月末までを期限とした暫定利用者の募集を行った。その結果、「ひがし広場A」の暫定利用者として決定した大日本印章㈱が、野外バーベキューレストラン「HARBOR GARDEN」を7月15日（金）にオープンさせた。なお、「ひがし広場B」は引き続き暫定利用者の募集を行っており、事業予定者が決まるまでの間、一般開放（平日9時～17時（11月～2月は9時～16時））するとともに、イベント等の利用を図っている。

海洋環境プログラム「グリーンアワード」に参加

11月21日（月）、名古屋港管理組合は、海洋環境保護や船舶の安全運航を目的として設立された非営利活動法人グリーンアワード財団（本部：オランダ・ロッテルダム）が世界規模で取り組む「グリーンアワード・プログラム」に参加することを表明した。同日、この参加を記念して開催されたセレモニーでは、同財団のヤン・フランセン理事長から銘板が授与された。

このプログラムは、環境負荷の低減や安全航行に寄与する優良船舶を認証する同財団、認証船舶の船主、港湾管理者・港湾関係事業者・金融機関等のプログラム参加者が三者連携することで、海洋環境保護・船舶の安全運航を促進することを目指している。

港湾では、オランダ、ベルギー、ドイツ、ポルトガル、南アフリカ、カナダなど世界12カ国、32港が、うち国内では2014年に北九州港が初めて参加しており、名古屋港は、これに続いて国内2番目の参加港となる。

名古屋港では、平成19年に策定した概ね20年先を目標年次とする長期構想「名古屋港の針路」において「環境にやさしい港」、「安全な港」を目指しており、グリーンアワード・プログラムに参加し、名古屋港に入港する認証船舶に対して優遇措置を与えることで港湾の環境保護、船舶の安全運航の取組を進めていく。

【物流関連】

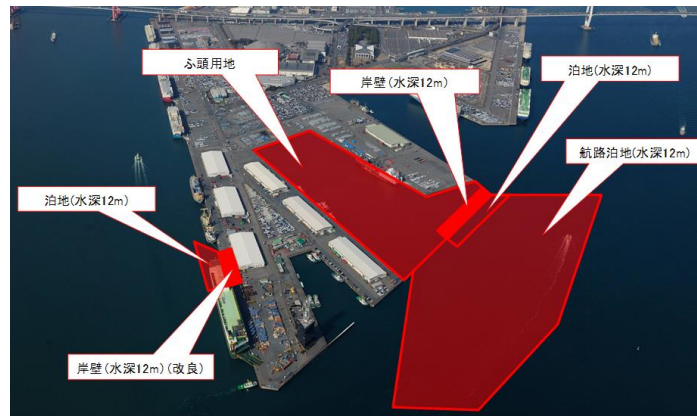
総取扱貨物量 15年連続日本一へ



飛島ふ頭のコンテナ取扱機能の強化に向け事業採択



金城ふ頭の完成自動車取扱機能の強化に向け工事着手



鍋田ふ頭進入道路の全線 4車線化完了



【防災・危機管理関連】

堀川口防潮水門の躯体の耐震工事始まる



【親しまれる港づくり関連】

アジア最大のクルーズ船、乗客4,400人を乗せ初入港



LEGOLAND® J a p a nの開業日が来年4月1日に決定



中川運河に新たなにぎわい施設を誘致



ガーデンふ頭のにぎわい創出に向け再開発基本計画の策定始まる



【その他】

海洋環境プログラム「グリーンアワード」に参加



※各写真はデータでも提供可能です。

kouhou@union.nagoyako.lg.jp

名古屋港管理組合広報・にぎわい振興室まで
ご連絡ください。

平成28年名古屋港港湾統計年推計

入 港 船 舶		平成28年推計値	平成27年実績	前年比(%)
総 数	隻数(隻)	33,000	33,310	99.1
	総トン数 (千総トン)	238,100	234,663	101.1

取 扱 貨 物 量		平成28年推計値	平成27年実績	前年比(%)
総取扱貨物量 (千トン)		191,100	197,980	96.5
内 訳	外貿貨物	127,600	130,994	97.4
	内貿貨物	63,500	66,986	94.8
コンテナ総取扱個数 (千TEU)		2,647	2,631	100.6
内 訳	外貿コンテナ	2,479	2,466	100.5
	内貿コンテナ	168	165	101.8

平成 27 年 までの 最 高 記 録

入 港 船 舶 隻 数	72,521 隻	昭和44年
船 舶 総 ト ン 数	241,783,906 トン	平成19年
総 取 扱 貨 物 量	218,130,496 トン	平成20年
外 貿 貨 物 量	140,611,794 トン	平成25年
内 貿 貨 物 量	80,685,587 トン	平成19年
コンテナ総取扱個数	2,896,221 TEU	平成19年
コンテナ個数(外貿)	2,638,447 TEU	平成19年
コンテナ個数(内貿)	257,774 TEU	平成19年

※ 内貿コンテナは平成10年より集計開始

平成 28 年名古屋港港湾統計年推計

平成 28 年名古屋港港湾統計の年推計は以下のとおりとなりました。

入港船舶の総数は、外航船で、コンテナ船等が増加したが、内航船で、一般貨物船等が減少し、隻数は 3 万 3,000 隻（前年比 0.9%減）と前年並みで、総トン数は、外航船で、コンテナ船等が増加し、2 億 3,810 万総トン（同 1.1%増）と前年より増加する見込みです。

総取扱貨物量は、外貿貨物が 1 億 2,760 万トン（同 2.6%減）となり、輸出では完成自動車、産業機械等が減少し前年より減少となる見込みです。輸入では原油等が減少したが、石炭等の増加により前年並みとなる見込みです。内貿貨物は 6,350 万トン（同 5.2%減）で、完成自動車が移出入ともに減少し、前年より減少となる見込みです。全体では 1 億 9,110 万トン（同 3.5%減）となり 15 年連続で日本一を堅持する見込みです。

また、外貿コンテナ取扱個数については、248 万 TEU（前年比 0.5%増）となり、全国第 3 位となる見込みです。